

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 3 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	西 村 修 一
研究課題	教科商業科の教師に求められる資質・能力を踏まえた教職課程の在り方について				
研究キーワード	高等学校教育、産業教育	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

2022 年度高等学校入学者から新しい学習指導要領が実施されている。教科商業科については、地域産業をはじめ経済社会が健全で持続的に発展するよう、組織の一員としての役割を果たすことができるようにするために、科目構成や各科目の内容が大幅に改訂された。あわせて、どのような指導を展開するのかについて、学習指導要領に示された。

こうしたことから、新しい学習指導要領に基づいた教育を担う教員を育成するように、教職課程のカリキュラムの在り方及び教員養成上大きな役割を果たしている「教育実習」の課題と充実方策について探求した。その結果、次の知見を得た。

ア 教職課程のカリキュラムの在り方について

- ① 現行の高等学校学習指導要領の教科商業科と、現在の教職課程のカリキュラムとの整合性を分析したところ、商業の四つの学習分野について、それに分類される科目の内容と、教職課程の教科に関する専門科目の構成との間に乖離があることが分かった。
- ② 上記①の乖離を改善するために、商業科に属する科目の内容と本学の専門科目とのシラバスを照合し、教科に関する専門科目の適切な構成を見いだした。それを基に、教職課程のカリキュラムの改善を図った。

イ 「教育実習」の課題と充実方策について

- ① 教育実習に関するアンケート学生に対するアンケートからは、指導内容に関する知識、指導の方法・技術、生徒とのコミュニケーションに不安を感じていることが明らかとなった。
- ② コミュニケーションに関しては、生徒に伝えることの「引き出し」の少なさを実感していることが明らかとなった。
- ③ 高等学校における教育実習は、教職に対する学生の気持ちの変容にプラスにもマイナスに働いていることが明らかとなった。
- ④ 受け入れ先高等学校へのヒアリングと学生に対するアンケートから、教職インターンシップの有効性が示された。
- ⑤ 上記①～④のことから、教職課程の各科目との連携を密にすること、ボランティア活動などの経験を積むこと、生徒との距離感の保ち方について具体的な事例などを基にして指導する必要があること、高等学校での教育実習終了後に適切にフォローアップをしていくこと、教職インターンシップの受け入れ先の拡充を図ることが教職課程の充実に必要なことである。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

上記1. のイの内容を「教育実習」の課題と充実方策について」と題してまとめ、2024 度の千葉商科大学紀要 62 巻第 3 号に研究ノートとして投稿した。

【 学会発表等】

なし

3. 主な経費

上記研究を進めるために、関連書籍の購入や文具代、所属学会の年会費等に使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし